

# 前置詞 *by* の意味

—— *near* の意味と対比して ——

嶋 田 裕 司

The Meaning of *By*

—— In Contrast to *Near* ——

Hiroshi SHIMADA

## 1. はじめに

本論の目的は、前置詞 *by* の用法、特に具体的な空間内で場所を示すための用法を記述することによって、*by* の本質的な意味に接近することである。前置詞は、多義語の中でもとりわけ多くの意義を持つ語と見なされている。辞典においては、前置詞の意味は、多くの意義（または用法）に分割されて、個々の意義ごとに定義と例文が与えられているのが普通である。*by* も他の前置詞と同様に、細分化された意義の集合として辞典に記されている。もちろん、辞典の中には、語義を使用頻度の順に列挙するものばかりでなく、中心的意義と派生的意義の関係を示しながら記述するものもある<sup>1</sup>。しかし、語の多様な用法の間の関係を正確に捉えて表現することは難しい。この論文は、*by* の様々な使用法を統一的に理解するための準備として、*by* の基本をなす図式的意義を捉えることを目的とする。

この研究は、前置詞の意味構造一般に関する理解と個々の前置詞の意味の理解を目指す試みの1つである。前置詞の意味は、他の言語表現の意味と同様に、基礎的な概念構造の中の一部を指し示すことによって成立する。前置詞の場合には、各前置詞が特定の構造をなす空間を選択し、その中に区域または方向を指定することによって意味が構成される。先行研究においては、この方式によって、*above* と *over*、*for* と *to* などの記述を行った。ここで取り上げる *by* の意味も、この一般的形式に従って記述することになる<sup>2</sup>。

*by* の意味を理解するためには、*near* と比べるのが近道であると思われる。*by* の意味は *near* の意味に似ているので、*by* の空間的意味の定義の中に *near* が用いられるほどである。本論では、BBC News を資料として検索サイト Google によって得た使用例に基づいて、*by* と *near* を比較する。さらに、記述した相違を基にして、2つの前置詞の意味構造を仮定する。

## 2. *by* と *near* の使用例

ある前置詞の意味を理解するためには、その前置詞が物理的空間内の位置や方向を表す事例から観察し始めるのがよいと思われる。ここで物理的空間と呼ぶものは、話者が見たり触れたり身体を動かしたりすることによって感覚を通して確認できる空間のことであると解釈しておこう。このような空間内であれば、話者は前置詞が示す位置や方向を具体的に認識できるので、その認識を記述することが前置詞の基本的意味の把握につながる。また、意味を理解する上でもうひとつの重要なことは、その前置詞によく似た意味を持つ別の前置詞と比較してみることである。類似したものを比べてみれば、それまでは漠然としていたことが、2つのものの類似点と相違点となって明瞭に浮

かび上がってくるのである。したがって、本節では、by の意味を理解するために、物理的空間内の用法を取り上げて、よく似た前置詞 near の使用法と比較することから考察を始めよう。

前置詞 by と near には、興味深い相違があることを Lindstromberg (1997: 141-142) が述べている。彼は、(1a-b)の文が by と near のどちらを用いてもほぼ同じ内容であると言った後で、2つの前置詞の相違を指摘する。第一点は、by が主に水平面上の近接性を表すのに対して、near が垂直軸上の近接性までも表しうるということである。たとえば、鷹がウサギの巣のすぐ上を飛んでいるとき、距離が近ければ near を用いて(2)のように言うことができるという。

- (1) a. She's standing by / near that tree over there.  
 b. Go stand by / near that tree over there.  
 (2) While the eagle was near, the rabbit stayed in its hole.

第二に、(3)の移動の表現 go by the window には二通りの解釈があるのに対して、go near the window には窓辺を到着点とする一通りの解釈しかないという。go by the window の場合、状況によって、窓辺を通過してどこか別の所に行く と解することも、窓辺が到着点となるように解することもでき、特に到着点の解釈は、その後 to and stay there (at least for a while) と言えば明瞭となるという。この第二の点については、第3節で論じることとする。

- (3) I want to go by / near the window.

第一の相違点、すなわち near が垂直軸上の近接性も表現できるのに対して、by は水平面上の関係のみに限定されることは、使用例の観察によっても推察できる。たとえば、(4)のように near を用いた near the sea floor と near the bottom of the table という例は見られるけれども、near の代わりに by を用いた \*by the sea floor や \*by the bottom of the table の使用例は見出せない。〈海底の近く〉と〈図表の最低値の近く〉を表しているのは、by ではなく near である。このことは、垂直軸上の位置が by によっては表せないという一般化を支持している。

- (4) a. A robot submarine is deployed near the sea floor,....  
 b. Firstly, two new species of benthic foraminifera - simple animals that live near the sea floor - appeared.  
 c. Right now, England's near the bottom of the table when it comes to five-year cancer survival rates.

もうひとつの事例として average という語を見よう。この語は、above average あるいは below average という表現が示すように、垂直軸を心に呼び起こして、その軸上に平均値を指定する。その上で above と below は、(5a, b)のように、それぞれ平均値の上と下の位置を指定する。〈平均値近く〉を表すときには、(5a, c, d)のように、average は near と結びついて near average という表現を生み出す。ところが、これと同じ意味を表すために \*by average を使うことはないと思われる。使用例としてこの表現を見出すことはできないからである。このことも、垂直軸上の近接関係には by が用いられないという一般性の現われあると考えられる。

- (5) a. Met Office said it expected above or near average rainfall for the rest of the

- summer....
- b. Temperatures were below average.
  - c. Daytime maximum temperatures were generally near average across the UK,....
  - d. Near-average rainfall in April improved water supplies in the South East....

ここまでは、前置詞 by の使用が水平面上の関係に限られることを見てきた。それでは、水平面上の関係であればどのような場合でも by を用いることができるのであろうか。答えは否である。by は near に比べて使用上の制約が厳しい。このことも by を near と比較することによって観察してみよう。

第一に、near がその目的語として形の無い場所を表す語をとりうるのに対して、by は目的語に何らかの形を表す語を要求する。たとえば、near には home, centre, scene, site を目的語とする使用例があるのに対して、by が場所を表す際にこれらの名詞を目的語にする例は見つからない。すなわち、(6a)のように near the home of... は用いられても、near を by に替えた \*by the home of... という句が用いられることはない。home という語は、house のように具体的な建物を表すのではなく、家庭生活の中心となる所を表すので、この語から家の形が見えてくることはない。center, scene, site についても、これらは、ある種の位置を表す語であり、その位置に特定の形はないといえる。これらについても、by を用いた \*by the centre / scene / site of という場所表現は用いられない。(ただし、移動の経路の用法があることは、第3節で見る。) (6)には near と名詞の組み合わせを2例ずつ挙げる。

- (6) a. The accident happened near the home of Nathan Gault's uncle, Gordon Cutler.
- b. Divers searched a lake near the home of Jude Richmond.
- c. ...the crowds gathered near the centre of the city....
- d. But the marina is not near the centre of the town;....
- e. He lived and worked near the scene of the attack....
- f. A number of casualties were treated near the scene, while some were airlifted to hospital.
- g. I work in a university near the site of the accident.
- h. Angry crowds gathered near the site of the explosion,....

上の語以外にも、形の無い場所を表す語としては city, town, village がある。これらは、いずれも人が集まって暮らす所を表しているのみで、その場所の形は問題にはならない。どのような形をしていても、町は町、村は村である。これらは、near の目的語となって、(7)のように near the city / town / village という句を作る。

- (7) a. His grandparents were living near the city at the time.
- b. We used to live near the town,....
- c. Mr Grant, who lives near the village, is a big fan of the project.

しかし、これらが by の目的語になって町の付近や村の付近を指示する句を作ることはない。たとえば、(7)と同様の動詞 live を by と組み合わせた \*live / lives / lived / living by the city / town / village という表現は使用例中に見出すことはできない<sup>3</sup>。

一方、by の目的語となる名詞としては、sea, river, window がある。これらは場所を表す句 by the sea / river / window として、いずれも用いられている。ここで、これらの名詞が形のあるものを指し示すと考える理由は、sea については、陸地から海を見たときに海岸線が海の形を描いていると考えるからである。この場合、どこから海を見ているかが重要であり、by the sea が示す位置を認識する人は陸地において海を眺め、海と陸の境界線を認識した上で、その線付近の陸上に by the sea が指定する位置を定めている。つまり、場面を認識する人の位置を「視座」と呼べば、by の視座は、海と陸を見下ろす上空にあるのではなく、海上にあるのではなく、海の見える陸上にあるのである。また、river についても同様に川岸が川の外形を構成すると考える。by the river が示す位置を認識する人は、陸において川を眺めて、川岸の陸上に by the river の位置を定めている。window は、典型的には建物の壁にある開口部であり、その内側と外側を仕切る面が部屋の形の一部となっている。by the window が示す位置を認識する人は、部屋の中から窓を見ていて、その視座から、窓の内側つまり窓辺をその位置と認めている。それに対して、near については、形に関する制約が無いので、形の無いものも有るものも目的語になりうる。したがって、これらの名詞が目的語になって、near the sea / river / window という表現が用いられる。つぎに、これらの名詞を用いた by と near 両方の使用例を示す。

- (8) a. I live by the sea and I was on the beach last week....  
 b. You can just sit back by the river and relax.  
 c. I was lucky enough to get a seat by the window overlooking the right wing.
- (9) a. I live near the sea, but don't complain of the cold sea air,....  
 b. I feel sorry for the people living near the river.  
 c. Then, someone near the window said that the WTC was on fire.

それでは、どちらの前置詞も許される場合には、2つの句が全く同じ意味になるのであろうか。by the window と near the window はどのような場合にもでも交換して使えるのであろうか。この問いに対する答えも否であろう。しかし、目的語が sea, river, window の場合には、使用例からは2つの前置詞の相違が見出しにくいので、ここでは比較的しやすい lake が目的語になっている事例を取り上げる。結論を先に述べると、by the lake は具体的に目に見える場面を表すのに対して、near the lake には具象性に関する制約はない。初めに by the lake の例(10)を観察しよう。(10)の by the lake が表す場所に位置づけられる物事は、ある意味で具象的である。(10a)のピクニックをすることと(10b)の花を置くことは、人が身体を用いて行う活動あるいは行動である。(10c)の夏の別荘と(10d)の船小屋は、建物という具体物である。これらの物事は、ある湖の岸辺に位置づけられて、具体的な場面として見えてくるように描かれている。これらの例を理解する際に、描かれた場面を認識する人の位置、つまり視座は、湖を見渡せる湖畔にある。その位置から、個々の活動や建物が具体的に見えるように表現が理解されている。

- (10) a. Seven years ago you could have had a picnic right by the lake.  
 b. Organisers said hundreds of people had left flowers by the lake where Diana is buried.  
 c. ...he is still away in her summer house by the lake.  
 d. ...this is the boathouse by the lake on the 11th....

上の by の例とは対照的に、near を用いた(11)の near the lake が表す場所を占める物事は、抽象的である。(11a)の何百万人ももの中国人が住むこと、(11b)の複数の地域、(11c)の最大の都市、(11d)の環境に対する脅威は、湖畔を見渡せる位置に立つ人の視座から具体的に見える事物ではない。これらの事物は、湖畔に身を置いて見る対象ではなく、遥かに離れた上空から、あるいは、地図上の配列を見ることによって認識される対象である。もちろん、near the lake には、(12a)のように、一家族がかつて住んでいたこと、あるいは(12b)のように一人の運転手が一人の女性を見たことなどのように具体的な事態を位置づける場合もある。このような例を見ると、near と by の区別が難しくなる。しかし、near the lake には、(11)のような言わば巨視的な例が現れるのに対して、by the lake には(10)のような認識する人物の身の丈にあった場面が描かれるのが普通である。

- (11) a. Millions of Chinese live near the lake or in its flood plain.  
 b. Diseases like sleeping sickness and malaria have increased in the areas near the lake.  
 c. ...Irkutsk - the biggest city near the lake.  
 d. A project to reduce the environmental threat near the lake has reportedly attracted foreign funding.
- (12) a. Our family used to live right near the lake and we would hear jet skis at 11pm!  
 b. A driver saw a woman near the lake.

つぎに、by と near のもうひとつの相違を記そう。それは、near が程度のある概念を表すのに対して、by には程度の概念が無いと思われることである。near は、(13)の例のように程度の副詞 very, too, so によって修飾されて、very near the sea や too near the sea という表現を作る。ところが、near を by に置き換えた \*very by the sea や \*too by the sea という場所表現が使用されることはない。ただし、(14)のように right は、near も by も修飾することができる。このように、前置詞 by には程度の副詞が付かないことは、by には程度の概念がないことを示唆している。

- (13) a. I live very near the sea, so I had plenty of time to get used to boats.  
 b. She was also frightened of going too near the sea.  
 c. One hundred and fifty million years ago, Svalbard was not so near the North Pole,  
 ....
- (14) a. You're going to see us competing right near the front at every race from now on,...  
 b. I've got a lovely apartment right by the beach overlooking the sea.

さて、以上の観察を要約すると次のようになる。(a) by は水平面上の位置を表すのに対して、near は水平・垂直に関わりなく近接性をあらわす。(b) by は目的語として形のあるものを表す語をとるのに対して、near は形の有無に関わらない。(c) by は具体的に目に見える場所を表すのに対して、near には具体性の制約はない。(d) by には程度の概念が無いのに対して、near には程度の概念がある。

### 3. by と near の本質的な意味

これまでに観察したことを踏まえて、by と near の本質的な意味を記してみよう。ここでは、前置詞

の意味には、つぎのような一般性があるという前提で記述を試みる。前置詞は、ある特定の構造を持つ空間をベースとして選択し、その空間の中に区域または方向を指定する。(この一般化を擁護する議論はここでは行わないので、詳細は嶋田(2008)を参照されたい。)この一般化によると、よく似た意味を持つ2つの前置詞の相違が、ベース(すなわち前提となる空間)の相違として捉えられ、byとnearの相違もベースとして認識される空間の相違ということになる。

(15) nearの意味

nearは、1つのものに向かう方向をベースとして選択し、その終点付近を区域として指定する。

(16) byの意味

byは、人の生活する空間をベースとして選択し、そこに見えるものの傍を区域として指定する。

このように2つの前置詞の意味を設定すると、上で観察した相違点が意味構造上の相違として明瞭になる。nearが選択する空間は、byが選択する空間と比べれば抽象的である。(15)の定義によれば、nearは、方向を定めるための基準を1つ選び、そこに向かう方向をベースとして選択する。したがって、nearの目的語となるものは、方向の終着点であれば十分であり、大きさや形は問題とはならない。しかも、選択される方向は、基準物に向かえばよいのであるから、水平でも垂直でもよいことになる。さらに、nearの定義(15)は、本来抽象的であるので、様々な尺度の空間に当てはめることができる。また、nearが、程度副詞very, too, soによって修飾されうる程度概念であることは、nearが方向を選択することによって説明されることになる。方向という概念には、比較することが内在する(嶋田(2008: 83-84))。nearは、基準物から離れた所からその基準物に向かう方向を選択するのであるから、その方向上には〈より近い〉という程度の概念が存在する。

byの意味はnearに比べて具象的である。(16)に設定したbyの定義によれば、byは人の生活する空間を選択することになる。この空間は、認識する人自身の身体をその中に置いて、そこから観察できる空間である。しかも、その空間の中にあるものを基準にして、その傍らに区域を指定するのであるから、byの目的語は、形が目に見える具体物となり、その傍らに指定される区域にも具体物に相応する広がりが見込まれる。区域が基準物の傍らにあるということは、当然、基準物と区域は水平面上の関係になる。また、byにはvery, too, soという程度副詞が付かないことは、(16)のbyの定義が空間の一部としての区域を指定するのであって、方向を指定するのではないことによって説明することになる。byは、nearのように基準物に〈近い〉ところを表すのではなく、基準物の〈傍ら〉すなわち、その〈側面に接する〉区域を指定する。したがって、byの意味には、程度の概念が存在しない。

今までは、byとnearが最も単純な文脈に現れる場合に限って考察してきた。ここでは、移動の文脈に現れる前置詞の解釈に目を向けてみよう。第2節の冒頭で言及したLindstromberg(1997: 141-142)による2つの観察の一方がまだ残っている。彼によれば、(17)の文中のgo near the windowには、near the windowを到着点とする解釈しかないのに対して、byを用いたgo by the windowには、by the windowを到着点とする解釈に加えて、通過点とする解釈もあるという。

(17) I want to go by / near the window. = (3)

この相違は、(15)と(16)の定義の違いから説明することができる。near the windowの場合は、near

が選択するのは the window を終着点とする方向である。ひとつの方向には、出発点から終着点へと向かう1次元的な広がりしかなく、たとえば、その次元と直交する広がりはその方向を構成する要素ではない。しかも、どの出発点から見ても、特定の終着点に向かう方向は1つしかない。したがって、go near the window には、1つの解釈しかないことになる。それに対して、by the window は、生活空間の中の区域を指定するので、この区域には3次元的な広がり認識されている。したがって、その区域は、移動の到着点と解釈することも、他の場所に行く際の通路となる区域と解釈することも可能である。

(16)に示した by の本質の意味を設定する際に、その目的語が形のあるものを指示するという観察が重要な役割を果たしていた。(6)と(7)に例示したように、前置詞が near であれば、目的語に home, centre, scene, site; city, town, village をとることができるけれども、前置詞が by の場合には、これらの名詞を目的語にする使用例が見出せない。このことに拠って、by は形のあるものに基づいて区域を指定すると考えたのである。ところが、この観察は、物が存在する場所や出来事が生じる場所という、いわば、純粋な場所を表す場合に限られており、移動の概念が動詞によって与えられる文脈では、by の目的語が形の無い場所を表すことがある。つぎの例群においては、動詞 drove, passed が移動の意味を与えて、by は移動の経路が通過する場所を表していると言ってよいであろう。by の目的語は area, scene, site, village であり、いずれも形を限定できない場所を表している。このことは、by の本質の意味として提案した(16)の仮説に疑問を投げかける。

- (18) a. ...I drove by the area where the events happened,....  
 b. Jim Harrison, who drove by the scene earlier, said:....  
 c. ..., whose motorcade passed by the site of the explosion about 30 minutes earlier.  
 d. From the banks of the river, we watched as a line of six small Nigerian navy patrol boats passed by the village,....

しかし、ここでは、(16)の定義を変えるのではなく、移動の文脈で前置詞 by の意味が果たす役割が変えられるのだと考えることにする。前置詞の意味とは、ある特定の空間を選択して、その中に区域または方向を指定することであるという一般化を前提として by と near の意味を仮定してきた。つまり、前置詞自体には、時間的変化の意味はなく、単純な空間的図式の意味だけがあると考えてきた<sup>4</sup>。(18)における by the area などの表現が移動の経路として解釈され、その際に by の目的語の指示物に形が要求されなくなったとしても、それは by 自体の問題ではなく、むしろ、移動という概念の問題として解決できるであろう。

#### 4. おわりに

以上で、by の意味を near の意味と比較しながら設定する作業をひとまず終える。もちろん、これで by について考えるべきことを全て考え尽くしたわけではない。それどころか、どの学習辞典を見てもわかるように、上で、提案した by の意味は、辞典の by の見出し中にある20項目ほどの語義の1つ〈…のそばに〉あるいは beside or near something を詳しく表現し直したものにすぎない。したがって、この記述を用いるだけでは、直接的に他の語義を理解することはできない。

しかし、本論で描き出した by の意味は、空間的かつ身体的な用法から導き出されたものであるから、by の本質的な意味を捉えていると考えることができる。今後の目標は、この意味を他の様々な用法と結びつけることによって、用法と用法の関係を明瞭に理解することである。たとえば、場所

を表す用法 (I live by the sea.) と移動の通路 (He passed by the window.) や経路 (He came in by the back door.) を表す用法の関係を理解すること、さらには、行為者 (The book was written by Mary.)、身体の部分 (I caught him by the arm.)、程度 (I am older than Sue by two years.) などの互いに関わり離れたように見える用法がなぜ同一の語 by によって表されるのかを理解することが目標となる。

おそらく、これらの多様に見える用法をつなぐ手がかりは、移動の概念とその比喩的用法であろう。前置詞 by 自体の意義が多義的であると考えのではなく、by の意味は1つの空間的図式であると考えてみよう。by は、移動の文脈で用いることによって経路の用法が生じ、さらに、移動の概念が様々な抽象的領域に適用されて多くの by の用法が生じたと考えれば、by の多義性は、移動の概念と抽象的概念領域に分けて理解することができる。多様な用法に対して、何らかのものが抽象的に移動するという概念化を認めることができれば、by の分断された語義を1つに綴り合せることができるであろう。

#### 注

1. 意味関係を捉えるために中心的意義と派生的意義の関係を丁寧に記述した辞書として、瀬戸(2007)がある。
2. 意味構造がベースとプロフィールの組み合わせとして成立することは、Langacker (1987) を参照。前置詞の意味構造一般と above, over, up, at の意味については、嶋田 (2008) を参照。for と to の意味の対比は、嶋田 (2009) を参照。
3. 『ジーニアス英和大辞典』は by の語法として、「地名の前に by は使わない: He was born in a town near [\*by] London.」と記している。この記述は、by の目的語として city, town, village が来ることはないという一般化の事例になると考えられる。
4. 前置詞の意味が非時間的 (atemporal) であるという考え方は、Langacker (1987) および Tyler and Evans (2003) を参照。

#### 参考文献

- 小西友七・南出康世 2001-2002. 『ジーニアス英和大辞典』東京:大修館書店
- Langacker, Ronald W. 1987. *Foundations of Cognitive Grammar, Volume I, Theoretical Prerequisites*. Stanford, California: Stanford University Press.
- Lindstromberg, Seth 1997. *English Prepositions Explained*. Amsterdam and Philadelphia: John Benjamins Publishing Company.
- 嶋田裕司 2008. 「前置詞の意味構造—空間の中の区域と方向」山梨正明他(編)『認知言語学論考 No.7』東京:ひつじ書房 45-93.
- 嶋田裕司 2009. 「前置詞 for の意味—to の意味と対比して—」『英語語法文法研究』第16号 21-34.
- 瀬戸賢一(編) 2007. 『英語多義ネットワーク辞典』東京:小学館
- Tyler, Andrea, and Vyvyan Evans 2003. *The Semantics of English Prepositions: Spatial Scenes, Embodied Meaning and Cognition*. Cambridge: Cambridge University Press.

#### 言語資料

BBC News: <<http://news.bbc.co.uk/>>